

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	透析患者の低栄養改善に向けて；ビタミン摂取不足・血清低値な患者に対する ビタミン補給の有用性の検討				
研究組織	代表者	所属・職名	食品栄養科学部・臨床栄養学研究室・教授	氏名	保坂 利男
	研究分担者	所属・職名	食品栄養科学部・臨床栄養学研究室・助教	氏名	榛葉 有希
		所属・職名	食品栄養科学部・臨床栄養学研究室・修士2年	氏名	豊永 咲
		所属・職名	しみずバクリニック・院長	氏名	宮地 武彦
		所属・職名	宮地医院・管理栄養士	氏名	樋川 千子
		所属・職名	食品栄養科学部・臨床栄養学研究室・学部4年	氏名	中村 風月
	発表者	所属・職名	食品栄養科学部・臨床栄養学研究室・教授	氏名	保坂 利男

**講演題目**

血液透析患者における水溶性ビタミン血中濃度と栄養指標との関連

**研究の目的、成果及び今後の展望**

(目的)

血液透析患者の食事療法では、たんぱく質やカリウム摂取量の制限が必要であるため、肉類や魚介類、野菜や果物などの摂取量が減少する。その結果、水溶性ビタミンや微量元素の不足により、血液透析患者の栄養状態が悪化する可能性が指摘されている。しかし血液透析患者において、水溶性ビタミンの血中濃度と栄養指標との関連をみた報告はほとんどない。そこで本検討では、水溶性ビタミンおよび微量元素の血中濃度と栄養指標との関連を明らかにすることを目的として調査をおこなった。

(結果)

ビタミンB1およびビタミンCの血中濃度が、BMI や上腕筋面積、下腿周囲長などの体格指標と正に相関することが示唆された。

(今後の展望)

ビタミンB1およびビタミンCの血中濃度低値が、血液透析患者の低栄養状態と関連する事が示唆されたことから、それらの低値が、血液透析患者の予後に関与しているかの前向きな検討やビタミンB1およびビタミンCの日常の食事や栄養補助食品による補充強化により、血中濃度上昇および低栄養状態改善となるかについての介入研究を検討している。これらの更なる検討により、血液透析患者の栄養状態を含めたQOLの改善と予後の改善に寄与すると考えている。

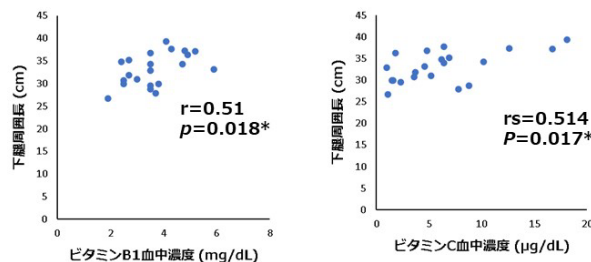


図 ビタミンB1, C血中濃度と下肢筋肉量